



# 株式会社中国シジシー 環境活動レポート

第3版

2009年度（2009年3月～2010年2月）

発行日：2010年09月30日  
改訂日：2010年11月30日



エコアクション21  
認証・登録番号003206



## 1 環境方針

### 株式会社中国シジシー

## 環境方針

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、事業活動における環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

### < 環境保全への行動指針 >

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 環境目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。
3. 具体的な取り組みとして次のことを推進します。
  - 脱地球温暖化社会のための省エネルギー
  - 循環型社会のための省資源、廃棄物の削減
  - 廃棄処理からリサイクル処理への転換
4. 当社のために働くすべての従業員にこの環境方針を周知します。

制定日：2008年06月01日

代表取締役社長

奈良 英治



## 2 事業所の概要

### 2.1 事業者名及び代表者氏名

事業者名 株式会社 中国シジシー  
 代表者名 代表取締役社長 奈良 英治  
 所在地 〒731-3198 広島県広島市安佐南区伴西 3-3-2

### 2.2 会社概要

設立 昭和 54 年 10 月  
 資本金 8,400 万円  
 全従業員数 42 名（内パート 11 名）  
 本部取扱高 361 億円  
 延べ床面積 1,018 m<sup>2</sup>



### 2.3 事業内容

CGC とは Co-Operative Grocer chain の略で直訳すると「食品小売業の協業機構」です。全国の中堅（小）スーパーマーケット各社が相互扶助の精神で共存共栄を図るべく、世界のベストソースからの商品仕入・開発・供給を主に、販促・物流・システム・情報・教育等の分野で共同運営している組織体になります。

CGC は、北海道、東北、東海、北陸、関西、中国、四国、九州の 8 地区本部と神奈川、千葉、新潟、北関東の 4 支社、全国をまとめるシジシージャパンで構成されます。中国 CGC グループは中国エリア（広島・岡山・山口・島根・鳥取）で加盟社 17 社、店舗数 309 店舗、総売上高 2,691 億円（2010 年 1 月現在）に上り、食品売上高においてエリア内 NO.1 のシェアを誇っています。

また、日々、来店されるお客様は約 50 万人を超え、来店頻度 2~3 回 / 週を考えると約 200 万人のお客様に支持・利用して頂いていることとなります。この数字はまさに「皆様の食卓をまかなっている、また守っている」存在と言えます。

### 2.4 登録認証範囲

CGC グループブランド商品及び NB 商品の集中仕入れ、及び卸販売の営業活動とそのバックアップの為の物流、販促の支援活動

## 3 環境関連法規制等の遵守状況

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、**環境法規制等の逸脱はありませんでした。**

また、過去 3 年間にわたって**違反や訴訟もありません。**

弊社の事業に適用される環境関連法規制は、下記の通りです。

適用される法規制	要求事項
廃棄物処理法	許可証の確認、マニフェスト管理

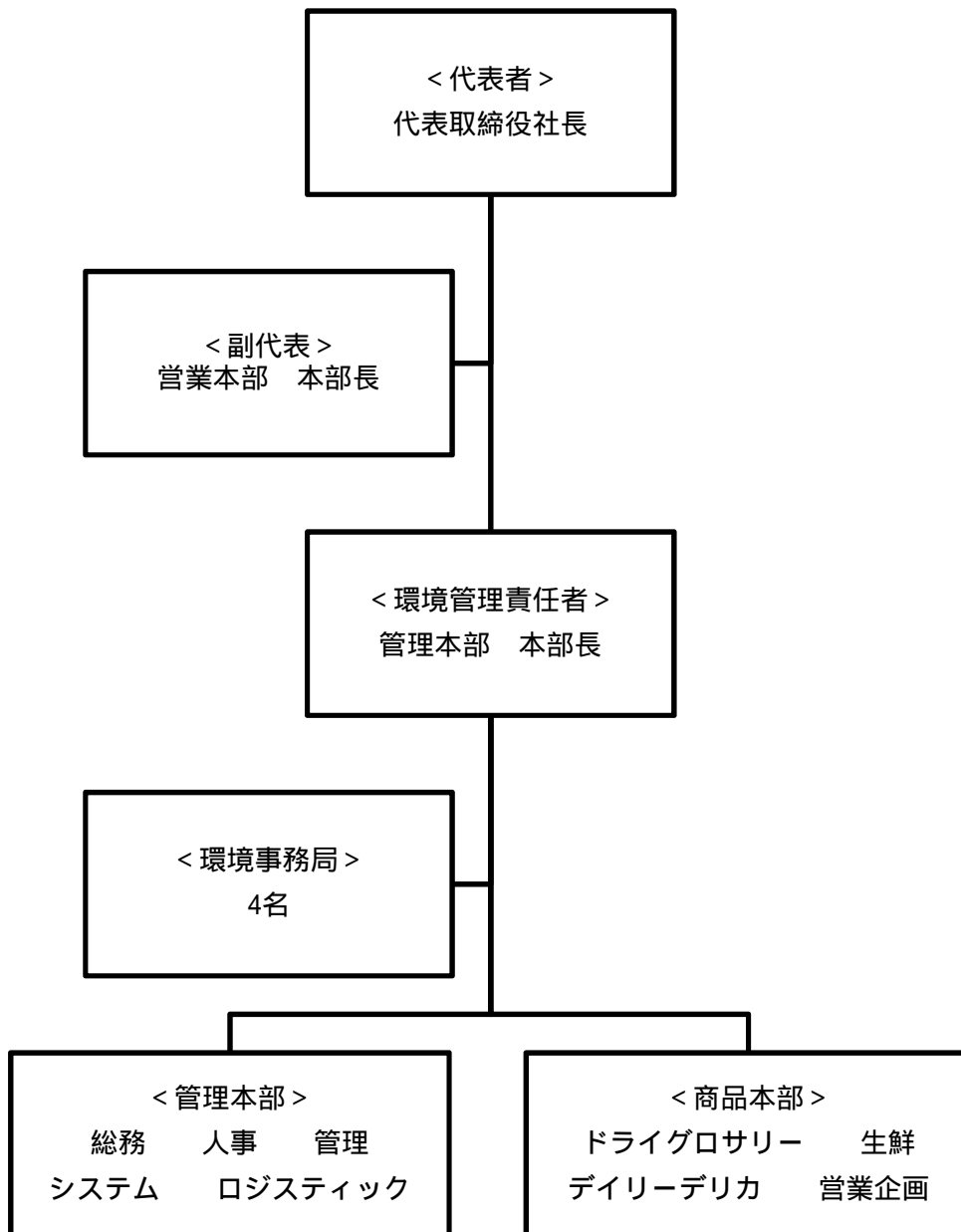


## 4 環境活動の実施体制

### 4.1 環境保全関係の責任者及び担当者の連絡先

環境管理責任者	管理本部 本部長	楽万 秀一 (TEL : 082-849-6715)
環境事務局事務局長	営業企画 課長	宮本 英樹 (TEL : 082-849-6714)

### 4.2 組織図





## 5 環境目標と実績

### 5.1 目標と実績

エコアクション 21 取り組み開始以降の目標と実績の推移は、以下の通りです。

環境方針	環境目標	基準 (2007 年度実績)	2008 年度		2009 年度	
			上段：目標 中段：基準年比 下段：実績	上段：目標 中段：基準年比 下段：実績		
脱地球温暖化社会のための省エネルギー	電力の省エネ	86,444 kWh	122,200 kWh 1%(*1) 121,426 kWh	167,700 kWh 3%(*2) 127,582 kWh		
	自動車燃費効率の向上	8.5 km/L	8.8 km/L +3% 9.3 km/L	9.1 km/L +7% 10.5 km/L		
	節水	なし	使用量の計測 - 221 m <sup>3</sup> (5 ヶ月)	使用量の計測 - 273 m <sup>3</sup>		
循環型社会のための省資源、廃棄物の削減	用紙使用量の削減	6,817 kg	6,650 kg 2% 6,324 kg	6,340 kg 7% 3,664 kg		
	印刷枚数の削減	837,619 枚	762,000 枚 9% 820,500 枚	746,000 枚 11% 798,400 枚		
廃棄処理からリサイクル処理への転換	リサイクルされない廃棄物の削減	4,832 kg (2008 年度)	排出量の計測 - 4,832 kg	4,640 kg 4% 3,373 kg		
全社一丸	環境への取り組みチェックシートの評価点上昇	52.9 点 / 100 点 (2008 年度)	全員の提出 - 52.9 点 / 100 点	57.8 点 / 100 点 +10% 72.7 点 / 100 点		

年度は当年 3 月～翌年 2 月です。

(\*1) 2008 年 9 月の事務所移転による電力使用量の増加に伴い、9 月以降は 2007 年度実績の 2 倍を基準値とした。

(\*2) 2008 年 9 月の事務所移転による電力使用量の増加に伴い、2007 年度実績の 2 倍を基準値とした。



目標達成



目標未達成

## 5.2 前年度（2009年度）の取り組みと評価

2009年度（2009年3月～2010年2月）の取り組みと評価は、以下の通りです。

目標と達成手段	達成率	実際の取組内容	今後の方向性
電力の省エネ ・節電運動の徹底 ・作業効率の見直し	131%	・冷蔵庫、冷凍庫での長期保存の禁止（保存されている品の見直し） ・冷蔵庫へのビニールカーテンの取り付け ・窓ガラスへの断熱コーティング ・会議に参加した（研修を受けた）人数の記録（会議・研修後の電気の消し忘れを減らす為） ・朝の掃除時間以外の廊下消灯 ・夜間の不要な換気の停止 ・朝のエアコン使用禁止 ・朝礼でのノー残業デーの告知	目標を再設定し、ノー残業デーを中心に取り組む。
自動車の燃費効率向上 ・タイヤ空気圧の定期点検 ・暖気の防止、乗合出張の推進	115%	・毎朝のエコスピーチ ・個人ごとの目標達成状況の見える化 ・エコドライブ運動（アイドリングストップ、環境教育、冷暖房の控え目使用、急加速の抑制） ・社用車のエコカーへの切り替え検討	燃料消費量の削減に取り組む。
節水 ・節水運動の展開 ・目標達成度の見える化	100%	・節水運動（節水を呼びかける掲示、環境教育等） ・貯水タンクに PET ボトル 水が流れなくなってしまったので中止 ・撒水時間の短縮	2009 年度の実績を元に目標を再設定する。
用紙使用量の削減 ・EDI の利用推進 ・用紙購入ルールの見直し	173%	・EDI の利用促進 ・FAX の電子化 ・明細印刷の PDF 化 ・テレビ会議の増加 ・専用用紙の一部を A4 用紙に変更 ・会議資料の簡略化、電子化	印刷枚数を削減する。
印刷枚数の削減 ・会議資料・事務書類の簡素化 ・FAX の電子化、両面印刷の簡略化	93.4%	・会議資料の CD での配布（CD の使用量：20 枚 / 月 100 枚 / 月に増えている） ・カラーコピーの印刷枚数の大幅削減（1/5 以下） ・基準年度（2007 年度）比で 5%削減 <印刷枚数の増加要因> ・専用用紙の一部を A4 用紙に変更 ・株主総会用資料の増大 ・高湿度による印刷トラブル ・セキュリティ確保と両面印刷の徹底による裏紙用紙不足	取り組みが甘かった点を反省し、印刷枚数を削減する。会議資料のレイアウトや内容チェックのルール化。
リサイクルされない廃棄物の削減 ・弁当ガラ・食べ残しの削減 ・シュレッダーの使用規制	138%	・会議の際に提供する飲み物を紙コップ+2L の PET ボトルに変更（以前は 500ml の PET ボトル） ・シュレッダーゴミのリサイクル ・会議や生鮮道場の参加人数の記録 ・生鮮道場や試食会の残りの持ち帰り、容量の削減 ・弁当箱を通い箱に変更	アイデアを出し、様々な取り組みにチャレンジする。

目標と達成手段	達成率	実際の取組内容	今後の方向性
環境への取り組みチェックシートの評価点上昇 ・ウィークポイントの分析と強化 ・企業の取り組みを強化し、個人が取り組みやすい体制を築く	127%	・成績上位者（6位まで）の表彰 ・設問ごとの合計点や偏差値の集計 ・毎朝の朝礼での3分間エコスピーチ ・設問内容のレベルアップ	目標に合わせてレベルアップした設問に変更する。

### 5.3 今年度以降の目標

2009年度までの結果や反省を踏まえて、2010年度以降の中期目標を以下の通り策定しました。

環境方針	環境目標	基準 (2009年度実績)	2010年度	2011年度	2012年度
			上段：目標 中段：基準年比	上段：目標 中段：基準年比	上段：目標 中段：基準年比
脱地球温暖化社会のための省エネルギー	電力の省エネ	127,582 kWh	126,300 kWh 1%	125,000 kWh 2%	123,800 kWh 3%
	自動車燃料消費量の削減	37,513 L	37,100 L 1%	36,800 L 2%	36,400 L 3%
	節水	273 m <sup>3</sup>	270 m <sup>3</sup> 1%	268 m <sup>3</sup> 2%	265 m <sup>3</sup> 3%
循環型社会のための省資源、廃棄物の削減	用紙使用量の削減	3,665 kg	3,590 kg 2%	3,560 kg 3%	3,520 kg 4%
	印刷枚数の削減	800 千枚	792 千枚 1%	784 千枚 2%	776 千枚 3%
廃棄処理からリサイクル処理への転換	リサイクルされない廃棄物の削減	2,901 kg	2,870 kg 1%	2,840 kg 2%	2,810 kg 3%
全社一丸	環境への取り組みチェックシートの評価点上昇	72.7点 / 100点	74点/100点 +2%	75点/100点 +3%	76点/100点 +4%
事業活動における環境負荷の低減	期末在庫高の削減（回転率の向上）	なし	4回転 / 月	4回転 / 月	4回転 / 月



## 6 まとめ

### 6.1 総括

2009年度の目標は、概ね達成できました。

また、個人レベルでは、マイカップ（コーヒーなど）やマイ箸持参により、紙カップ・割箸の使用を削減したり、エレベータの使用を自粛したりと、従業員の意識レベルも向上してきています。

設備面では、システム化（EDI等）により、用紙購入量の大幅な削減に成功しました。また、2008年8月25日に事務所を移転しましたが、旧事務所には設置されていなかった「IH調理器（LPGの廃止：オール電化）」、「グリーストラップ（廃油の処理）」、「照明や水道のセンサー（消灯や蛇口の閉め忘れの防止）」、「網戸（エアコンを切った際、窓の開閉に支障がないように）」を新事務所に取り付けました。

中期目標の策定においては、物流部門、及び商品本部を含めた取り組みを強化することとし、「賞味期限の管理強化等による在庫回転率の向上」、「イレギュラー発注の削減等による物流効率の改善」、「加盟社が個々で実現できないリサイクルシステムの構築」を意識した目標設定としました。

### 6.2 課題

個々の活動について、各担当からのタイムリーな活動状況の見える化を更に進めていくことが重要であると考えております。

また、弊社では、物流を全て委託しており、輸送距離や燃料の使用量、梱包材の廃棄量・処理方法等が把握できない為、委託先企業と協力して環境負荷の削減に取り組んでまいります。商品の仕入れにあたっては、グリーン調達等の環境配慮を加盟社に強制しておりませんが、各加盟社にEA21の認証・登録を推奨し、加盟社全体での環境配慮に取り組んでいきます。

加盟社である(株)フレスタ（2009年1月）及び(株)藤三（2010年3月）において、EA21を取得しました。

### 6.3 その他の取り組み

2009年10月1日から広島県全域で始まったレジ袋有料化に合わせ、レジ袋の売上の一部を環境保全団体などに寄付する「中国CGCみどりところの基金」を設立致しました。また、本基金は、緑化だけでなく「食育」「知育」「環境学習」「チャリティー」等、子供達と共に学ぶ場、体験できる場の提供もテーマとして掲げております。



取り組みの第一弾として、2009年10月、「第25回ちびっ子健康マラソン大会」において、3本（赤1本、白2本）のはなみずきを寄付し、記念植樹を行いました。

以上